

語る、革新的な“ものづくり力”

グローバル化を生き抜く ものづくりへの挑戦

このほど経済産業省にて「ものづくり日本大賞」が開かれた。ものづくり日本大賞は、製造・生産の現場で活躍する人材のうち、特に優秀と認められる人材を顕彰する制度。2005年より2年おきに実施され、今回の2015年度は6回目を迎え、現在、応募申請を受け付けている。座談会には過去に内閣総理大臣賞を受賞した4氏が集い、経済産業省製造産業局長 黒田篤郎局長と交えて意見が交換された。進行は第2回から選考有識者委員として参加しているジャーナリストの三神万里子氏が務めた。

現場を担う個人にスポットを当てる

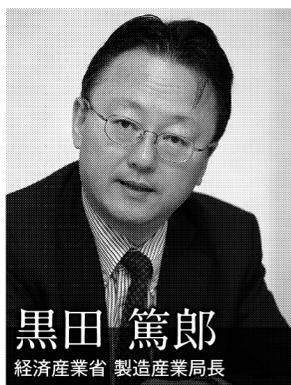
三神 ものづくり日本大賞は、優れたインベントが日本全国どこでも活躍している人材を顕彰する。高い発掘効果を持つ顕彰制度。表彰の対象は組織ではなく、あくまで開発した当事者個人。日本の競争力の源泉は人材に尽きるという議論はよくありますが、それを抽象論で終わらせず、現在進行形の事例と人材、その発想法にスポットを当てる。日本にあって非常に本質的な意味をもつ賞であると思はれています。

黒田 日本の産業と文化を支えてきたものづくりを継承・発展させるため、ものづくりを支える人材の意欲を高め、その存在を広く社会に知らしめることが、ものづくり日本大賞の目的です。経済産業省、文部科学省、国土交通省、厚生労働省の4省が連携して実施しており、経産省においては「製造・生産プロセスの革新」「従来のない画期的な製品・部品や素材の開発・実用化」「伝統的な技術の応用」「海外展開」のものづくり人材の育成支援の5分野で貢献した方々を表彰してまいります。経産省関連では過去5回の累計で約2800件の応募をいただきました。31件の内閣総理大臣賞と84件の経済産業大臣賞を選定しました。本日お話しいただいた4名の方は、いずれも素晴らしい技術者を有し、また時代の変化を捉えた卓越したアイデアで、ものづくりの最前線で活躍されています。本年12月15日まで第6回目の募集をしておりますが、いよいよ後輩となる応募者の皆さまに熱いメッセージを送りたいと思います。

梅澤 私どもは「小さな型かには信じがたく、さらに納期を約60分の1に短縮できた事実」に驚愕しました。劇的な改革はどのような着眼点から始まったのですか。



三神 万里子氏
進行役 選考有識者委員



黒田 篤郎
経済産業省 製造産業局長



梅澤 大きな一つの課題をクリアするなか、視点を「ものづくり」から「完成品」にシフトする。第1に各部署の在庫を減らすこと。第2に人の手が入る工程を減らすこと。第3に金型で完成品まで持っていく。中継品は生まれ、部品単位で洗浄や梱包の工程もカットされます。当然それらの工程で生まれてきたロスや不良品も減らされていくという発想です。そして、即出荷可能な「速さ」も高まりました。

三神 日本の農林水産品のうち輸出額の上位にあるのが真珠です。一次産品としても成熟した真珠産業において、まったく新しい価値づくりに成功したのが小松さまです。

小松 通常は表面がつるつらとした真珠にミラールのようなカットを施した「華真珠」で海外市場を開拓したことが評価され、09年に賞を頂きました。開発当初、真珠をカットすることに対して国内ではなぜカットするのかわからず、批判的な意見が多かったため、仕方なく海外へ出たという

開発に関わった従業員、応援してくれる人に報いるためにも賞への応募を

のが事情。現在も海外での評価が断然高く、山梨県を訪ねる海外来賓への対応も大変です。第1に各部署の在庫を減らすこと。第2に人の手が入る工程を減らすこと。第3に金型で完成品まで持っていく。中継品は生まれ、部品単位で洗浄や梱包の工程もカットされます。当然それらの工程で生まれてきたロスや不良品も減らされていくという発想です。そして、即出荷可能な「速さ」も高まりました。

三神 国内生産が難しくなりつつあるエレクトロニクス業界において、ダイキン工業という

ア、ヨーロッパ諸国、インドでの採用が進んでおり、テラアクトシステム化のチャンスをつかみかけているという状況です。

三神 この受賞案件は、一つの製品に実用面での多面的なソリューションが詰まっています。ものづくり日本大賞は、あくまで創造的思考の中心に對する敬意であり評価です。大企業と中小企業との区分がなく、所属企業ラットに見なす特徴があります。ダイキン工業の例は、多くのサプライヤーとともに総合的に取り組んだ、大企業ならではの取り組みです。対照的なのが、従業員数数千名、名の世界的乳幼児の生命を救う製品を生み出したクロノス社です。

黒田 成長が期待される医療連携分野における、ガッツいぶる挑戦です。

三神 さく、皆さまは多数の応募の中から内閣総理大臣賞を受賞されました。受賞後の変化はありましたか。

小松 私の父も梅澤さまのようになんか知らない。いいものをつくってほしい。という職人気質の男。6年前に会社を継いだ際に、父には高い技術と多くのノウハウがあり、自分には何も無いという状況に悩まされた。そこで、父が開発した真珠カットの技術を私が進化させ、それが賞を獲得できれば、対外的にアピールできるポイントになる。ある意味非常に打撃的な気持ちがあったのも事実です。華真珠を発売した20年前、真珠をカットすることに悩まされた。父は批判的でしたが、半数の方は応援してくれました。受賞は私のサポートの方々の恩に報いることにはなるはずと考えることを決意しました。

三神 ものづくりの意義を確認できる応募書類作成

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

第6回 ものづくり日本大賞

集まれ、日本の原動力。

「産業・社会を支えるものづくり」(製造・生産プロセス部門/製品・技術開発部門/伝統技術の応用部門/海外展開部門)
「ものづくりの将来を担う高度な技術・技能」(青少年支援部門)

応募期間 | 平成26年10月1日(水)～平成26年12月15日(月)

第6回ものづくり日本大賞応募専用ホームページ
<http://www.monodzukuri.meti.go.jp/> ※応募書類をダウンロードの上、ご応募ください。

ものづくりを担う日本の企業の皆様、ふるってご応募ください。

概要

ものづくり日本大賞は、右記(1)～(4)の4分野において、特に優れた成果をなした個人、グループ等を表彰します。

表彰の対象となる4つの分野のうち、「(1)産業・社会を支えるものづくり」及び「(4)ものづくりの将来を担う高度な技術・技能」のうち「③青少年支援部門」について受賞候補者の募集を行います。応募のあった候補者の中から受賞者の選考を行い、表彰します。

(※上記以外は既存の各種大賞表彰制度等の受賞者等の中から選考を行います。)

受賞効果

～受賞企業アンケートより～

社内外に大きな反響、高い効果

従業員の意欲向上	92.5%
マスコミからの取材が増加	77.5%
企業信用力の向上	69.5%
売上高の増加などの業績向上	49.6%
求人・採用面でのメリット	39.5%

中小企業受賞者の約6割が売上高増等の業績向上に結び付いたと回答。企業信用力の向上にいたっては8割以上、求人・採用面でのメリットも5割近くの結果が出ています。

図表

(1) 産業・社会を支えるものづくり

- ①製造・生産プロセス部門
- ②製品・技術開発部門
- ③伝統技術の応用部門
- ④海外展開部門

(2) 文化を支えるものづくり

(3) ものづくりを支える高度な技能

- ①ものづくりの現場を支える高度な技能部門

(4) ものづくりの将来を担う高度な技術・技能

- ①一般部門(就業者)
- ②青少年部門(学生)
- ③青少年支援部門